

尾瀬

第33号

尾瀬の自然を守る会

観光地化につながる施設 —早く入山制限を—

今秋尾瀬でますます観光地化につながるおそれのある施設整備が進行した。

一つは尾瀬沼畔長蔵小屋前の高台に一回に三百六十人が使用出来るトイレが完成した。環境庁白光事務所は地下侵透式と云っているが、汚染物質が尾瀬沼に入り込まない保証はない。ますます増大するハイカー対策だろうが、尾瀬沼や、尾瀬ヶ原の水の汚染が問題になっているだけに、もつと積極的な抜本的な対策を押しすすめてほしいものだ。

又福島県側御池にある駐車場の拡張(○・八ヘクタール)、これもシーズン中、尾瀬に最も楽に入る登山口(沼山峠)に殺到するマイカー規制と云うことだ。国立公園地域からはずれた檜枝岐周辺の河川敷等を使って出来ないものか、尾瀬の核特別保護地区をはずされたとは云え、亞高山帯の原生林を犠牲にしての駐車場建設ではなきないのか、尾瀬の核心部特別保護地区をはずされたとは云え、

方群馬県側ではシーズンオフになった九月末、尾瀬ヶ原の木道整備と合せて、尾瀬ヶ原の湿原上に休憩所(五ヶ所)

解説板(標柱)十本を立てた次頁新聞記事。湿原保護を訴えている環境庁、県がこの種のものを貴重な湿原をひっくりかえして設置することが理解に苦しむ、これら一連の作業は安易に尾瀬を訪れる人々をさらに受け入れやすくするだけで、ますます観光地化に拍車をかけることにつながる。

尾瀬ヶ原観察テラス(休憩所)と解説板(標柱)についての要望書

昭和五十九年十一月十二日
群馬県知事 清水 一郎殿

尾瀬の自然を守る会 岸 好人

要 望 書

尾瀬ヶ原は日光国立公園尾瀬地域に於ては最も厳重に保護されなければならないところである。昭和三十年代急増した登山者の踏付けで最も弱い湿原が尾瀬全域に渡って多くの破戒をしました。その後群馬、福島両県が中心になつて湿原の回復に努力をはらわれたことは周知の通りであります。しかし尾瀬ヶ原はかつての習慣で湿原の最短距離を結ぶところに半永久的とも云える木道が順次整備されてきました。これも尾瀬ヶ原の将来を考えたとき、高層湿原のまん中を木道が縦断している姿は好ましい状態ではなく、いろいろな問題を引きおこしております。ましてや今回の観察テラス(休憩所)と、あの巨大な解説板標柱は、どう考へても湿原上には好ましいものではありません。登山者が多くなつているとは云え、從来の木道ぞいのベンチでまことにあうのに、このした施設を増設する事はますます観光地化の発想でしかありません。山林の土の上ならともかく、湿原を板敷に、また多量の湿原を壊かえして、なぜあんなにめったな解説板を作る必要があるのか理解に苦しみます。よつて次の事を要望致します。

1. 今秋作った観察テラス(休憩所)及解説板は雲消え
(来春)と同時に撤去して下さい。

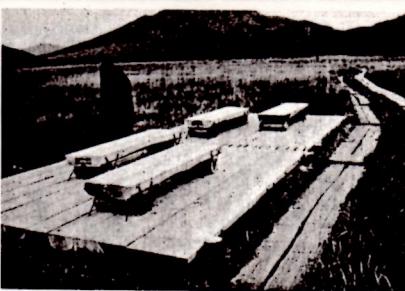
2. 環境庁、文化庁、群馬、栃木、新潟三県担当者、土地所有者、山小屋関係者、保護団体等に呼びかけて「尾瀬の自然を永久に守り、どのように活用すべきか」を話し合う場を早急に作つて下さい。



愛する尾瀬 その一

大石武一氏の講演

やはり返事は環境庁にそのような権限はないという事で、私が何度も調べさせましたが。とうとう根負けして彼が「ある。」と返事をしたので、次に群馬・新潟・福島三県の知事を呼び議論しました。福島県の知事は自分が尾瀬が好きなものだから、副知事を代理にして来ました。他の二人が工事に積極的なので配慮したのでしょう。議論は三時間近くかかり、とうとう私の気迫に負けて知事連中も工事の中止を不承不承ながら認めました。



(S59. 11. 13 上尾新聞)

観光テラス 撤去要請

尾瀬を 守る会

自然破壊に拍車

尾瀬の自然を守る会（岸好一）
尾瀬の自然を守るために活動する会
を愛情こめて能光先生と解説
標柱
西田 はい、この標柱が、この場所で、このことを示すためにあるのです。
人代議士 十二日、沼水軍一、各委員の了解を得て同時に撤去
に對しては今度、第四回の話
ようやく裏切られました。
助金制度で尾瀬を守るために、
たのむからうさ（休憩所、五万円）
なり、「自然破壊もしない」
所と解説板（岸好一）
どうもの、同会議によ
るまではが白光園立公園な
うれしい内。
山林地政課事務局
としへては、尾瀬を守るために、
かき念事を重して設置した
事務所ではないかとおもふ。
森業者もあつたが、未だ道が
狭隘な馬鹿の馬鹿長は尾瀬
したたずねや馬鹿樹は尾瀬
力所が危険さもあり、

団体の人たちに呼びかけて作ったのが「緑の地球防衛基金」なのです。今地球上で森林の破壊が猛スピードで進んでおり、二十世紀には $1/3$ 以上消滅してしまう。こうして数百万種

スピードで進んでおり、二十世紀には $1/3$ 以上消滅してしまう。そうして数百万種の生物が絶滅すると言われている。地球全体の動きが人工衛星で撮った写真で明らかに

土の半分位（二千万ha）の森
林が焼きはらわれ、そのうち

この後二十年もすれば地球上の大森林はすべて無くなつて

地方、アジアの熱帯地方、ア

原因の一つは焼畑農業です。

二年位で土地がやせるので他

長靖君が一ノ瀬小屋の目と鼻の先で亡つたと聞いた時は本当に残念に思いました。

私は「緑の地球防衛基金」というのを作り、日本の自然保護に理解のある人々に呼びかけています。国会の話しがなりますが、自民党から共産

党までのすべての政党が参加している超党派の議員連盟というものは数が少いのです。その中でも大きいのが二つあります。日本自然保護議員連盟と国際軍縮促進議員連盟です。二つとも私が会長をしておりました。この二つは根本的に同じ思想で、自然を守る事は結局人の生命を守る事であり、それは戦争を防ぐ軍備縮少することにつながるのです。そこで二つの議員連盟の役員と相談し、学界・財界・市民

土の半分位（二千万ha）の森林が焼きはらわれ、そのうちの半分が砂漠になっています。この後二十年もすれば地球上の大森林はすべて無くなってしまう。というのはアマゾン地方、アジアの熱帯地方、アフリカ西海岸地方の三大森林が続々焼かれているからです。原因の一つは焼畑農業です。特に東南アジアやアフリカでは森林を焼きその灰を肥料にして作物を作つております。二年位で土地がやせるので他

例えばネパールなど我々は森林におおわれた国だと思つてゐるようですが、森林は十三%位しかありません。日本で森林が無くなつたといつても七割は森林です。エチオピアでは3%しか残されていません。ここではこの二百年間に首都が八回變つており、今のアジスアベバもそろそろ放棄しなければならなくなりましたが、もう行く所がない。本当に悲惨な状況です。三つの原因は先進国が自國の森林

でなくす以外にはありません。国連の一機関で算出した数値では年間二五十五億ドルあれば現存の森林が守れるとの事です。この金額は非常に大きな金額ですが、現在世界の軍事費は七千億ドルです。このお金は一部の軍事産業や悪德政治屋のもうけになるだけで、何も生産しておりません。一粒の米も一切の牛内・豚肉も生産していません。ですから軍縮をする事によつて貴重な資源を残し、世界の平和を

資源に手をつけずそういう国々の森林を利用している事があります。日本はアジアの国々から外材を輸入しているので七割も森林が残っているのです。そのため日本では山の手入れがされなくなり、山で働く人は生活ができなくなっています。

十三日、櫻井町に対して同じく
市長の申入を受けた。そこで直島は「ハイイ
が原島に赴き頃合はない。
よろしく原島の急用をお尋ね
などもあればお詫びの上、お詫び
をうながして置いた。また解
説は、税金を支拂ひよう
に使はれず、税金を支拂ひよう
じたえだる」(新幹線問題)
と述べて居る。
同会が急用を要するに
至ったが名古屋方面に向か
い配達業者と交渉したが
同会の専任事務官は「どう
で半額は補助的
に運搬する必要はない。たまに
いい雨風の時に運搬する
もののも」と説明。ミスバ
三五が二方所、四三・五三が三
方所に船で運びたが、八〇
九六割の船で切斷したも
ううなづ。テラス工事も
九十六割のベンチを設置し
た。また、新幹線橋柱は五
十六・八九丸木で、
(二)を運ぶが、初めて切
断した上野港辺の岩の解
説は、土砂を運搬するに使
用する大手を取引の上、
岩手ラヨウと交渉して立
ている。
にまたがる名古屋方面に向
かうに運搬業者と交渉したが
五十分で決まり、運送業者
は「ハイ」(新幹線問題)と答
えた。

守り経済を立ち直らす事が可能となるのです。片方の国を滅ぼすという事は戦争する事は不可能です。片方の国を滅ぼす事です。今米ソで所有している核兵器の量は、広島原爆の百万発以上です。地球上の人間を三〇回皆殺します。これ以上何を求める必要がありますか。お互いの国が軍事費の一割づつ減らしてもバランスは変わりません。この七百億ドルでその国的人は生活一割豊かにできるし、そのうちの二〜三%で飢えている数億の人々が救済でき、しかもたつ二十五億ドルで世界の森林の破壊が防げるなら、当然軍縮の努力を続けねばならないでしょ。

話しが長くなりまして恐縮しました。これで私の話しき終わりたいと思います。

(文責 水沼)

奥鬼怒スープー林道建設現場視察及調査報告

栃木県側

十月二十一日、日曜日。

昨夜來の雨雲も晴れて、手白沢は秋色最盛期。カエデ類やカバ・シデ類が織りなす色の世界に、一同驚歎の声も無し。

ヤマウルシの深紅にブナのえび茶、アスナロの濃緑にカラマツの黄金等々、自然はありつけの絵具を流して山裾から天空まで染めあげる。眞に日本の四季の偉大さに改めて感じ入った次第であつた。

さて、今日目指すのはスープー林道最大工区のひとつ、加仁湯温泉下流の鉄橋工事現場。宿泊地の手白沢温泉より、林道へと紅葉の山道を辿る。

ブナの林を過ぎ、ホシガラスの姿を確認しながら林道へと下つていく我々の眼前に突然傷口をぱっくりと開けた工事現場が現われた。

奥鬼怒の清流を崩して、白いコンクリートの柱が立ち並ぶ。工事用の仮橋脚が六本、さらに建設中のものを含め防錆色の塗料を塗つた鉄骨が組まれ、四角いコンクリート塊を支えている。この仮橋脚を支えて建てるために川はその流れを

尾瀬ヶ原に泊って、翌十一日は天候に恵まれブナの新緑

の美しい裏焼道を経由、松枝岐を訪ねられた。



加仁湯温泉と白ナンバーのマイクロバス

岸に捨てられ、付近一帯の木本の根元を埋め尽しているのが見える。いずれにせよ、橋を中心に入れを堀り進む。川は現場より下流部が捨てられた土砂で濁っている。水生昆虫は恐らく大打撃を受けたに相違ないと思われる。加仁湯名物のイワナは大丈夫なのだろうか。橋の上には立ち入れないため、目測で長さを測つてみると、どうも良くわからない。おおよその幅を歩数でみると約二十一歩分(ちなみに私の足は二十六・五cm、従つて橋の幅は五五六・五cmとなるのだが)もある。

加仁湯手前の林道は実測四一〇cm、両脇にさらに六〇cmの側溝がついている。

群馬県側

奥鬼怒スープー林道反対群馬県自然保護団体連絡協議会(高橋義男代表)は十一月十八日一年前に着工された、奥鬼怒スープー林道群馬県側(九・三キロ)の工事現場の調査を本年八月四日の調査につけ、着工以来、建設が進んだ大清水から五・五キロの区間を踏査した。調査には、高橋代表以下八名、森林開発部からは、梯照明前橋建設事務所長が出席し、さらに朝日新聞、毎日新聞の記者が同行した。

調査にあたつて、去る八月四日の現場調査をふまえて、一、工事にあたつては、自然環境の保全に万全を期す必要があること、そのためには、①支障林の伐採は、必要最小限とすること。

②残土処理については、土捨て場における土の流出と風致保護上支障のないようにすること。

③緑化については、当該する地域に生育する植物と同種の植物で行うこと。

④切取後等の工事について、自然石又は、自然石に模したブロックを使用すること。

二、これから残土処理について、量はどのくらいか、具

大量の土砂が橋の上流側の河岸に捨てられ、付近一帯の木本の根元を埋め尽しているのが見える。いずれにせよ、橋を中心に入れを堀り進む。川は現場より下流部が捨てられた土砂で濁っている。水生昆虫は恐らく大打撃を受けたに相違ないと思われる。加仁湯名物のイワナは大丈夫なのだろうか。橋の上には立ち入れないため、目測で長さを測つてみると、どうも良くわからない。おおよその幅を歩数でみると約二十一歩分(ちなみに私の足は二十六・五cm、従つて橋の幅は五五六・五cmとなるのだが)もある。

加仁湯手前の林道は実測四一〇cm、両脇にさらに六〇cmの側溝がついている。

群馬県側

奥鬼怒スープー林道反対群馬県自然保護団体連絡協議会(高橋義男代表)は十一月十八日一年前に着工された、奥鬼怒スープー林道群馬県側(九・三キロ)の工事現場の調査を本年八月四日の調査につけ、着工以来、建設が進んだ大清水から五・五キロの区間を踏査した。調査には、高橋代表以下八名、森林開発部からは、梯照明前橋建設事務所長が出席し、さらに朝日新聞、毎日新聞の記者が同行した。

調査にあたつて、去る八月四日の現場調査をふまえて、一、工事にあたつては、自然環境の保全に万全を期す必要があること、そのためには、①支障林の伐採は、必要最小限とすること。

②残土処理については、土捨て場における土の流出と風致保護上支障のないようにすること。

③緑化については、当該する地域に生育する植物と同種の植物で行うこと。

④切取後等の工事について、自然石又は、自然石に模したブロックを使用すること。

二、これから残土処理について、量はどのくらいか、具

既に、確実に破壊されつつある。(児玉芳郎記)



東岐沢に建設中の橋脚

体的な捨て場はどこになるのか、等が申入れてあり、今回調査では、こうした点が注目された。その結果、同区域内の土捨て場、2ヶ所に土砂流出防止対策がされているほか、ブロックの選択にも注意が払われていることがわかった。緑化については、在来種については緑化効果に時間がかかる(発芽がおそく、根ばかりが悪い)ので緑化の早い外来植物(ケンタッキー、オーチャード、クローバー等)が使用されることや、新たに5ヶ所土捨て場が群馬県側に建設されることが明らかになった。特にこれらの土捨て場は、トンネルを掘つて出る土砂を処理することが、中心であり、約4万立方米はあると云っている。又、地質的には、石英安山岩質溶結凝岩で、柱状節理の発達が顕著であり、ブロック状にくずれる可能性

があることである。これらから工事が進行する東岐沢の上流に多く見られ、この地域は急傾斜地であるために、くずれる可能性があるのではないかとの指摘に対し、そうした意見はあるが地質的、岩盤的には、現行方法で心配はないとのことであった。全体的には、かなり、速いペースで工事が進行しており、本年度は工事予定計画より、400m位工事が進行する見込みとのことである。しかし全体的な工事計画は、大巾に遅れ、完成予定は昭和六十一年度か昭和六十四年度に延期されている。こうした調査結果をもとに森林開発公団に対し、
① 土捨て場を駐車場化させぬために、自然木を植えて自然の状態に復元すること。
② 森林の伐採を最小限に止め、工事にともなう土砂の流出、土砂崩れの発生のないよう、自然環境保全のため、慎重な工事を行うことなど改めて申入した。

これから課題として、来年に着工される部門は、より山が陥しく、工事の難しい部分。山の崩壊による自然破壊が心配される。尾瀬の観光化防止のために、貴重な自然を守るために、こうした開発には監視の継続が必要である。

東岐沢に建設中の橋脚

野家・初代環境庁官・大石武一氏、歌手の加藤登記子さんを含め、多くの自然を愛する方々の参加を得て大に行なわれた。

また後日、テレビにて、この出版の内容の放送がおこなわれた。(中島和人記)

る。(飯塚忠志記)

尾瀬・山小屋三代の記
(後藤允著)岩波新書)

明治の初め、福島県南会津郡檜枝岐村に生まれた長蔵氏と尾瀬との結びつき、そして故郷檜枝岐村と長蔵氏・さら

に檜枝岐村と尾瀬との関係について詳細に書かれ、私達に多くの事を教え、問いかけるものがあり、考えさせられる点多い。

二代目を引継いだ長英氏と本文は続き、山守りとしての感を平野家はより一層深めてゆく。これは、宿命といつてしまえば、あまりにも悲しい

尾瀬について書かれた出版物は数多いが尾瀬を取りまく風土・人情・歴史・自然・環境との本の様に事細かく書かれた本は数少ないであろう。

尾瀬を愛し、尾瀬を研究し

た人々は数多くおり、現在も

数多くの人々が、春から秋に

かけ訪れ、その痕跡をのこし

ている。

その中で、九十年以上に渡

り尾瀬に住み、数々の問題に

身を挺して闘つてきた平野家

の存在は忘れられない。

この本は、この三代に渡る

平野長蔵・長英・長靖につい

て書かれた、日本の自然保護

の原点のバイブルとも云えよ

る。

出版記念ボーテーには、(六

月九日中野サンプラザ)著者

を始め、マスコミ関係者、平

野家、初代環境庁官・大石武一氏、歌手の加藤登記子さんを含め、多くの自然を愛する方々の参加を得て大に行なわれた。
58年8月から3ヶ月間、毎日新聞夕刊に74回に渡つて連載された「尾瀬・ひとと自然」が一冊の本として加筆・削除されたものである。
著者(後藤允氏)は毎日新聞東京本社、編集局勤務であり、尾瀬の玄関口、沼田市の出身であり、生まれながら尾瀬との結びつきが有り、事務局長内海氏とは友人である。
尾瀬について書かれた出版物は数多いが尾瀬を取りまく風土・人情・歴史・自然・環境との本の様に事細かく書かれた本は数少ないであろう。
尾瀬を愛し、尾瀬を研究した人々は数多くおり、現在も数多くの人々が、春から秋にかけ訪れ、その痕跡をのこしている。
その中で、九十年以上に渡り尾瀬に住み、数々の問題に身を挺して闘つてきた平野家の存在は忘れられない。
この本は、この三代に渡る平野長蔵・長英・長靖について書かれた、日本の自然保護の原点のバイブルとも云えよ
る。
出版記念ボーテーには、(六月九日中野サンプラザ)著者を始め、マスコミ関係者、平
電話
事務局
発行日
尾瀬の自然を守る会会報
第三十三号
平成五十九年十二月十五日
岸 好人
〒156 東京都世田谷区桜三丁目十三十三
一 東京農業大学第一高等学校生物教室内
〇三・四二五・一四四八一内四三